

令和の里海づくりモデル事業

取組	地域を担う次世代の子どもたちの参画によるアマモ場の再生及び連携体制の構築
概要	藻場の再生をするため、天然のアマモ場から種を採取し、次年度に海域へ移植するための種苗生産とアマモ場の再生を実施。 ブルーカーボンの活用を実現していくため、活動団体・地域をつなぎ、今後持続的に地域一丸となった体制の構築。
背景	
地域資源	【自然】 - 福良湾（美しい自然環境） 【海産物・食】 - とらふぐやサクラマス、鰹がブランド化 - 南あわじ市沿岸部では、ノリ、ワカメ養殖を実施 【アクティビティ】 - 鳴門海峡があり、渦潮観潮船の運航等、観光名所が南側に位置する
地域課題	- 磯焼けの進行による藻場の減少 - 漁業者の担い手の維持・増加 - アマモ移植技術等の専門知識不足や専門家との連携 - 地域内の連携体制の構築

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

【保全】

- これからの地域を担う次世代の子どもたちとともに、漁業者、企業、地域団体との連携によるアマモの移植を実施する。

【活用】

- 地域住民等への藻場の大切さやブルーカーボン、活動内容の普及啓発のため、ウェブサイト構築や動画制作などにより、情報発信を行う。

【好循環形成・促進】

- 藻場再生やブルーカーボンに取り組む地域や、自治体、企業等との連携体制の構築、情報共有のため、ブルーカーボンネットワークを構築し、今後の継続的な活動の実施に向けて議論する場を作る。

気候変動 × 漁業 × 観光 × 環境教育



令和の里海づくりモデル事業での取組

取組	地域を担う次世代の子どもたちの参画によるアマモ場の再生及び連携体制の構築
主な実施内容	【令和5(2023)年度】 ・ 藻場再生のためのアマモ移植の実施 ・ 次世代へ豊かな海をつなぐためのワークショップの実施 ・ 取組の情報発信のためのウェブサイト構築 ・ ブルーカーボンネットワークの構築による好循環形成ビジョン検討、など
成果	・ ワークショップの中で、アマモの株移植を秋季に実施。移植1か月後のモニタリング調査では、アマモの生育を確認。 ・ 小学生を対象としたワークショップ（3回）実施。子供達にアマモ場の重要性を伝達。 ・ 取組の情報発信のためのウェブサイト構築、公開。ワークショップの開催案内や当日の状況等を掲載。 ・ ブルーカーボンネットワークを構築し、不定期に関係者（市、漁協、学識者、NPO法人等）との情報共有を実施。
今後の課題・展望	・ アマモの繁茂期の来春季頃に分布確認予定。 ・ ワークショップ等の環境学習については、今後、吉備国際大学との連携も視野に調整予定。 ・ 活動の継続にあたって、漁協との連携に課題あり（活動場所等）。 ・ 今回は、スタートアップとして阿万海岸周辺での取組であったが、他海域への展開も視野に検討予定。



移植後のアマモの様子



ワークショップの様子



構築したウェブサイト